令和2年度食品安全委員会が自ら行う食品健康影響評価の案件候補に関する 企画等専門調査会における審議結果について

案件募集については、食品安全モニター、専門委員、外部募集等を通じて9件の提案が寄せられ、第31回企画等専門調査会で案件候補を「*Unicapsula seriola*の有害性」に絞り込み、情報を収集・整理し、引き続き審議することとなった。

その後、32回企画等専門調査会で、有識者等から収集した情報も踏まえ、調査審議を行った。

案件候補／危害要因	審議結果	審議の内容
<i>Unicapsula seriola</i> の有害性	食品安全委員会において引き続き科学的知見の集積の動向を注視することとなった。	「 <i>Unicapsula seriola</i> 」は評価に必要と考えられる科学的知見が不足していることから「自ら評価」案件として取り上げないが、引き続き科学的知見の集積の動向を注視することとなった。

Unicapsula seriolaeの有害性

①提案理由（提案者記載のまま）

毒性はまだ証明されていないが、カンパチの生食に伴う有症苦情事例とUnicapsula seriolaeとの間に関連性が示唆されているため

- ・ヒトへの健康影響に関する情報

喫食から発症までの時間：4～6.5時間
主症状：水様性下痢
重症者はおらず、短期間で回復している。

- ・どのような食品にどの程度含まれているかや摂取の状況

カンパチ刺身残品の5カ所から採取した検体はいずれもPCR陽性で、定量的には 1.8×10^5 乗～ 4.6×10^8 乗copy/gであった。また、鏡検により5カ所中1カ所から 2.4×10^6 個/gの胞子が検出された。

- ・流通状況

生産地は国内（養殖）で、県内卸売市場および仕入れ先の販売店に関連する有症事例の情報は入っていなかった。

②食品安全委員会での対応状況

【食品健康影響評価】

【リスクプロファイル】

【過去の「自ら評価」での審議と概要】

③最近における健康被害の発生状況

【食中毒情報】

- ・2018年1月、広島県内の宴会場を有する宿泊施設において、カンパチに寄生したKudoa属に近縁な粘液胞子虫Unicapsula seriolae（以下U. seriolae）の関与が疑われる集団有症事例が発生。有症者6人の症状は下痢必発（水様便、1回1人、2～5回3人、6回以上2人）、嘔気2人、渋り腹2人で、腹痛や嘔吐はなかった（文献1）。
- ・平成27年：16事例193名、平成28年：10事例106名、平成29年（6月時点）：6事例96名（文献2）。

④リスク管理措置等

⑤参考情報（主なもの）

【文献】

- 1) 丸山暁斗ら, 「カンパチに寄生したKudoa属に近縁な粘液胞子虫Unicapsula seriolaeの関与が疑われる集団有症事例-広島県, IASR, 39(12), 225-226 (2018).
- 2) 大西貴弘ら, 「カンパチの生食に伴う有症苦情事例残品中のUnicapsula seriolaekise寄生量の定量的解析の検討」, 食衛誌, 59(1), 24-29 (2018).
- 3) 鈴木淳, 「都内の粘液胞子虫がかかわる有症事例と魚介類の感染実態調査」, 日本食品微生物学会雑誌, 34(2), 84-88 (2017).
- 4) 丸山浩幸ら, 「生食用魚類に寄生する多殻目粘液胞子虫の検査法の検討及び汚染実態調査」, 福岡市保環研報, 43, 59-65, 2018

⑥資料3-5のⅢに基づく記載(「自ら評価」の対象ではないと考えられる理由)

--	--